名寄市病誌　13：81～115，2005

各科の現況と展望

消化器内科この一年

消化器内科医長　　斉藤　裕樹

平成16年４月からの消化器内科のスタッフの入れ代わりは，４月から谷津先生が当科のスタッフとして勤務されることとなり，外来は５人体制のままであったが，病棟は６人体制となった．しかし，坂上が９月に転勤となり，10月からはその補充がない状況で病棟，外来業務を行っている．今年度は異動がほとんどない年であったが，その中でも当院での勤務を選択してくれた谷津先生に感謝している．１年間の勤務先として旭川厚生病院消化器科か当院のどちらかを選択することになっていると事前に聞いており，当院に来てくれる可能性は低いと考えていただけに，誠にありがたい結果であった．谷津先生は当初は消化器領域のプライマリーケアのみを診ていく事が目的であったかもしれないが，結局多くの仕事をこなしてもらうこととなった．しかし，大腸内視鏡もかなり上達され，また一員としてフルに動いてくれたので，お互いに有意義な１年であったと思う．４月には転勤されるので残念だが，また機会あったら当院に遊びにでも来てくれたらと思う．また，短期間でも当院で勤務してくれる医師が今後もいたら，できるだけニーズに応えられるようにしていくつもりである．

もうひとつは当科を回ってきてくれた３人の研修医の先生方にも感謝したい．こんなことを言うこと自体が指導医として失格かもしれないが，私個人としては逆に大変助けられた．当科では満足しうる研修内容を提供できなかったかもしれないが，今後さらに知識，技術を習得し，飛躍できるよう期待する．

また言うまでもないことであるが，今年度の途中で循環器内科が総引き上げになったことによる影響は大きく，「いないとどうなるのか」がよく解った年であった．他科の先生方も同じことを経験していることではあるが，自分たちの専門とする領域の疾患だけでなく，肺炎，気管支喘息，心不全などの症例をしばしば他の病棟までベッドを借りて，例年になく多く抱えたことは大変ストレスに感じた．来年度は１日でも早く循環器内科医が常勤で来てくれることを願う．

平成16年の診療実績を振り返ると，外来患者数や外来収益，上部消化管内視鏡などの外来検査件数が減少していることは認めざるを得ない．いくつかの要因が考えられ，既に御指摘もあるが，業務改善を図る努力はしてきたとは言えないため，来年度はもっと取り組むようにしたい．ただし，今まで当院の消化器内科（第二内科）で勤務された先輩の先生方を見ると，この病院で５年を越えて勤続した方はおらず，また我々中堅以上の医局員の中でこの病院に（特に医長として）喜んで勤務を望む医師がほとんどいないのも事実であり，いかに当科があらゆる面での負担を大きく抱えているかをもっと御理解を頂けたら幸いと思う．

以下，当科の平成16年検査件数を挙げる．

上部消化管内視鏡：1855件
下部消化管内視鏡：996件
内視鏡的大腸腫瘍切除術：98件
腹部エコー：816件
内視鏡的逆行性胆管膵管造影：66件
胃瘻（造設＋交換）：44件
経皮経肝胆管ドレナージ（含交換）：51件
経皮経肝胆嚢ドレナージ（含交換）：15件
超音波内視鏡検査：51件
腹部血管造影（含治療）：24件